昭和新山学習登山会テキスト 3　2005,4,23 現在

ポイント 12　ドンコロ山と火口壁

ドンコロ山は有珠火山形成期もしくはその前に出来た火山で、伊豆の大室山や阿蘇の米塚と同じスコリア丘である。洞爺湖長和公園線側から望むと新しい町道左側に緩やかな傾斜の山体が良く分かる。新町道を登って大寺峠に至った左斜面が植生の悪い急斜面が火口壁である。一帯は赤色の細かいコークス様噴出物が堆積している。

ポイント 13　展望公園

ドンコロ山露頭が保存されている。白色軽石は Us-b といわれる有珠 1663 年噴火の降下軽石堆積層でその下部にドンコロ山・倶多良火山噴出物が互層をなしている。この①から東方を望むと、洞爺火砕流堆積層、昭和新山地皺山、新山沼、旧地方費道（道々）の跡などが見える。　（参照展望公園説明塙板）

展望公園に設置した解説

有珠成層火山とドンコロ山スコリア丘

約 2 万年前から約 7000 年前までの間に有珠山は噴火を繰り返し、成層火山として成長しました。この期間のある時、有珠山北東山麓で独立した火山としてできたのがドンコロ山です。ドンコロ山は 1 回の噴火限りで火山活動を終えたスコリア丘というタイプの火山です。

この解説板の前の崖の下部にある黒い地層がドンコロ山の噴出物です。黒い地層の中に見える縞模様は噴出物が丘陵の斜面を崩れ落ちながら積もったことを示しています。その上に砂礫層が乗り、更に崖の上部には黒土の上に白い軽石層や火山灰層があります。これらは 7000 年間の休止期を経て 1663 年に有珠山が噴火を再開した時の噴出物です。火口から上空に吹き上げてここに降り注いだ軽石層とその後に引き続いて発生した火砕サージ堆積物です。

ここから町道（昭和新山第 2 線）を 1200 メートルほど昭和新山に向って行くと、右手に樹木の少ない崖が続いています。この崖は原型のまま残っているドンコロ山の火口の内壁です。

スコリア丘

爆発的な噴火活動によって火口の周りに火山砕屑物が積み重なって出来た円錐形の火山体をスコリア丘あるいは火砕丘といいます。火山体の大きさの割には火口が大きいのが特徴です。日本での代表的な例として伊豆半島の大室山や九州の阿蘇カルデラの米塚などがあります。

火砕サージ

火山灰などの固体物質と気体が混合して地表に沿って流れる現象のうち、固体物質の比率の高いものを火砕流、低いものを火砕サージといいます。1663 年の有珠山噴火では噴火の後期にマグマが地下水に接触して大量の水蒸気と火山灰を生じて低温の火砕サージが発生し、長流川の対岸の丘陵地まで到達しました。

地形が物語る郷土の自然史

11 万年余り前に洞爺カルデラを作った巨大な火砕流噴火がありました。当時の長流川沿いの低地はすっかり火砕流堆積物に埋め立てられ、火砕流は低い丘陵を越えた背後にも流れ広がって、噴火湾に流れ込みました。火砕流の堆積直後から火砕流堆積物は急速に削られて現在の長流川が再生され、火砕流堆積物の多くは削り去られました。当時の洪水による氾濫で出来た平地の上に長流川の両岸の田畑が乗っています。火砕流堆積物は田畑の背後の 1 段高い畑作地帯の下に残されています。

1944-45 年にかけての有珠山の噴火では昭和新山の成長に伴って地盤が急速に隆起して長流川の支流である壮瞥川がせき止められて新山沼が誕生しました。この隆起に伴って当時の伊達に向う道道（現在の国道 453 号）や鉄道（今は廃止された胆振線）は長流川沿いに付け替えられました。新山沼にかかる橋の手前で交差する崖下の道路は噴火前の道道です。